

活動報告書

報告者氏名：中澤 由紀 所属：県立相模原養護学校高等部 記録日：2013年2月12日

【対象児（群）の情報】

- ・学年 高等部3年
- ・障害名 知的障がい アスペルガー症候群
- ・障害と困難の内容

→ひととの関わりが難しい。学校の授業、活動、人間関係に対して消極的。学校への通学がなかなか安定しない。

【活動目的】

- ・当初のねらい

→3年生になりクラス替えがあったり、担任が総入れ替えになったりしてなかなか落ち着かない様子。たまたま共通の話題（電化製品）について話が合い、少しずつ担任と話ができるようになった。そこで普段は家に引きこもりがちだった A さんを外の世界に向けさせるきっかけをつくったり、共通の話題を通して人間関係を広げたりすることを目的とした。

- ・実施期間

→2012年7月1日（日曜）

- ・実施者

→中澤 由紀

- ・実施者と対象児の関係

→担任

【活動内容と対象児（群）の変化】

- ・対象児（群）の事前の状況

→特定のひととしか関わろうとしない。障がいを受け入れることが難しく、学校の活動において消極的であった。自信のないことには特に拒否反応をおこし、その場から逃げることが多い。またひとが多い場所や騒音なども苦手で、引きこもることが多い。中学時代は引きこもって登校することが難しかったが、本校の高等部に入り少数ではあるが話せる友だちができてきた。

- ・活動の具体的内容

→“電化製品の街 秋葉原に行こう！”

行きたい場所を Safari で調べる。スクリーンショットで写真フォルダーに入れておきいつでも確認できるようにする。当日はマップアプリを使いながら現在地と行きたい場所を確認していく。

- ・対象児（群）の事後の変化

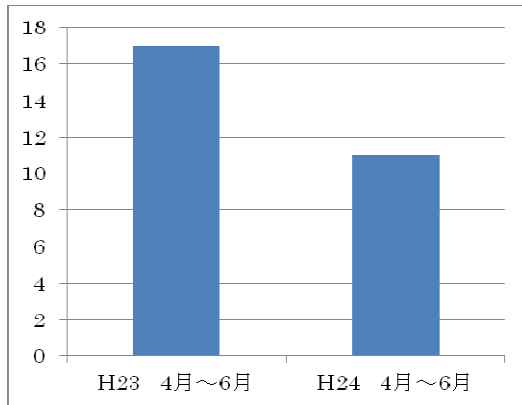
→友だちの「〇〇さんも来たいだろうな…」と友だちの名前をあげながら、今度は自分が連れてきてあげたいと言ってきた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

→Aさんは感覚過敏なところがあり、触られることをかなり嫌がる。学校生活や私生活においても、人気の多い場所は自分からも避けるが、活動当日は超満員の小田急線に乗れたことに驚いた。目標に向かってやりたいことがあれば、それに向かって頑張れるAさんの可能性を感じた。

・エビデンス（具体的数値など）



↑昨年度と比較して遅刻した回数



↑次回に備えて携帯のカメラでメモを撮っています。

学校で秋葉原計画を進めることで、学校に遅刻する回数が、前年度の同時期に比べてわずかではあるが減少しているように感じる。学校に対するモチベーションが高まり、iPadを介して（使い方を他者に聞いたり、教えてもらったことを友だちに教えたり）積極的にひととの関わりをもつ場面も見られたように感じる。

・その他エピソード（画像などを含めて）

→秋葉原計画をすすめるにあたって、書字に困難があるためメモをとることが難しいことが分かり、スクリーンショットやカメラでメモを撮る方法を教えた。自分で駆使して、実際の秋葉原では携帯のカメラを使ってメモをし、「次は〇〇くんをつれて来るぞ。」「△△くんがこれ好きそう。」などつつぶやく場面があった。

今回の活動で他者に対する関心や、次の活動への想像や意欲が感じられた。計画を考える Plan、実際に行動に起こし秋葉原へ行く Do、困ったときに随時 iPad を用いて確認をしていた Check、次ほどの電車を使うかなどルート改善する Act と、自分の経験を通して意欲的に活動できたように感じる。このような活動は、社会に出て普段私たちは自然に行っているが、なかなか日中の学校の活動のみで支援することは難しい。

卒業後からの生活が長いですが、学校の授業の中では見落としやすい余暇の充実（オフの充実）を今後学校全体で考え、支援していきたいと考えている。次年度の本校では、夏期や冬期などの休業中に、個の実態や Wants に合わせて、校外の活動に繰り出す企画を計画している。そこでも iPad を用いて、校外に持ち出し、自分の能力の一部として活用できるようにしていきたいと考えている。